

■平成30年度事業報告（事業の状況）■

公益目的事業	本県木材関連産業の振興を図る事業
--------	------------------

(1) 情報収集提供事業

本県木材関連企業における製品開発や加工利用技術の向上に資するため、秋田県立大学木材高度加工研究所の試験研究成果、木材・木製品に関する法令や制度の制定・改正情報、各種研修会や講習会の開催案内、木材関連の新技术情報、当機構の業務紹介などについて、情報紙及びホームページにより適時広範な情報発信を行った。

1) 情報紙の発行

情報紙「木材加工最前線」を出捐団体や賛助会員をはじめ、県内の林業・木材関連企業や行政機関、県内外の試験研究機関等へ配布した。

(発行回数：3回(84～86号) / 発行部数：各号650部)

NO	発行部数	発行日	主 な 内 容
第84号	650部	H30. 7. 30	教員の目から～「ナイス・住まいの博覧会」について / 太平山パーキングエリア活用イベントについて / ててて・遊びの学校について / 森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社について / CLT床版橋の試験について ほか 新しい木質部材等を学ぶ建築講座の実施について / あきた水と緑の森林祭に参加しました / 評議員会が開催されました ほか
第85号	650部	H30. 12. 5	鳥海山の埋もれ木と利用痕 / 木材の摩耗処理加工による表面の高機能化 / 国道7号線能代バイパスの木製防護柵塗装イベントの開催 / 岩手県大槌町で木工ワークショップを開催 / 木高研での新たな施設・設備の整備について ほか 「木の良さを活かしつつ、火事に負けない建物をつくる(スイシンキコウ主催・フォーラムから) / 川崎の木材フォーラム一行が木高研などを視察 ほか
第86号	650部	H31. 3. 29	ツーバイフォー建築への木材利用 / 木製薄板三次元成形技術による県産材の自動車市場参入 / 各種学会での木高研の発表 / 疲労試験室及び資材保管庫竣工しました / 木高研を離れるにあたって ほか 「モクコレ」2019 秋田の木材加工製品を出典 / アイデアあふれる木材利用を作品集化 / 平成31年度の事業計画、収支予算書などを承認(機構理事会の概要) / 県の新年度予算・事業について ほか

2) ホームページの運用

当機構の業務紹介、各種研修会や講演会の開催案内、最新の木材製品情報、木材関連産業のトピックスなど各種情報をホームページに掲載し、広く情報の提供を行った。

更新回数：HP6回、FB9回 / トップページへのアクセス数：2,474件

(2) 技術指導・移転事業

木材関連企業が抱えている木材製品の生産、加工、利用に関する技術的課題の解決をサポートするため、各種相談対応、現地指導、企業訪問、技術開発支援を行った。

1) 相談対応

来訪、電話等により企業から寄せられる諸課題に木高研と連携しながら対応し、必要に応じて資料送付、関連情報の収集提供、データ恵与、事例紹介などを迅速的確に行った。

相談件数 55件

① 内容別内訳 (件)

加工技術	生産技術	利用技術	情報提供ほか	計
3	3	18	31	55

② 業種別内訳 (件)

林業	木材加工	流通	建築設計	行政	試験研究	その他	計
0	28	0	6	4	5	12	55

2) 現地指導

企業からの派遣要請に基づき、当該企業が抱えている技術的課題の解決に適任の指導者を当機構の顧問、技術コンサルタントなどの中から人選し、直接企業に赴いて現地指導を行った。

顧問指導 1社 / 技術コンサルタント指導 0社

区分	指導日	対応者	業種	内容
顧問指導	H30.8.25	飯島泰男 顧問	建築設計	・木材の材種とその年代別利用法・在来工法の継ぎ手や仕口等について
技術コンサルタント指導	なし			

3) 企業訪問

木高研の研究成果の民間への移転可能性を探るとともに、企業ニーズを把握して研究課題に反映することをねらいとした企業訪問を実施した。

訪問企業数 75社

社 (延べ)

林業	製材	合板	集成材	フローリング	プレカット	チップ	家具木工	建具	流通市場	工務店	その他	計
3	27	2	19	3	1	2	0	2	7	1	8	75

4) 技術開発支援(県受託事業)

木材の新たな市場の創出に向け、CLTや木鉄ハイブリッド、耐火部材をはじめとする木質系部材の製造実証などの県内産学官連携による技術開発を支援した。

支援企業数 2社

助言者： 木材高度加工研究所 中村 昇 教授

業務期間	区分	参加企業	内 容
H30. 4. 1 ～ H31. 3. 31	耐火集成材の検討	2社	新規の耐火集成材について、耐火層に用いる難燃合板とそれらを用いた耐火集成材の製作を助言・指導している。

(3) 啓発研修事業

新製品開発に意欲のある企業や、社員の技術研鑽・知識向上に取り組む企業などを支援するため、公開講演会及び技術研修会を開催した。

1) 公開講演会

木材高度加工研究所の研究内容や成果を業界関係者、行政、他研究機関などへ広く周知するため、能代市、能代木材産業連合会と連携して研究所講演会を開催した。

開催日	会場	参加者	講 師	演 題
H31. 2. 14	キャッツスルホテル 能代	164名	(株)ウッドインフォ 中村裕幸 代表取 締役	ICT×森林が木材流通・木材産業に及ぼす未来 ～バックパック型3Dレーザによる森林調査と結果 を活用した林業再生～
			木材高度加工研究所 岡崎泰男 准教授	ツーバイフォー建築への国産材利用 ～スギ利用における課題と可能性～
			木材高度加工研究所 足立幸司 准教授	木製薄板三次元成形技術による県産材の自動車市場 参入 ～リアルウッドの三次元成形を可能にした新技術が 拓く県産材利用の新展開～

2) 技術研修会

木材関連産業に係る行政施策や業界の動向、制度改正などに迅速適切に対応しようとする企業等を対象に、技術研修会を開催した。

木質系耐火部材開発フォーラムの開催

開催日	会場	参加者	講 師	演 題・テーマ
H30. 11. 10	能代市 プラザ都	約 120名	桜設計集団一級建築士事務所 代表 安井 昇 氏 木材高度加工研究所 教授 中村 昇 氏 他 5名のパネリスト	「基調講演」 ・木の良さを活かしつつ、火事に負けない建物をつくる 「パネルディスカッション」 ・耐火部材・耐火建築普及拡大の要件について考える

新たな木質部材等を学ぶ建築講座の開催(県受託事業)

開催日	会場	参加者	講師	演題・テーマ
H30.6.30	秋田市文化会館	34名	秋田県林業木材産業課 副主幹 柴田悟 氏 木構造振興(株) 客員研究員 原田浩司氏 東京大学生産技術研究所 教授 腰原幹雄 氏	・建築講座概要説明 ・進化する木質材料 ・ひろがる木造建築
H30.8.26	秋田市文化会館	31名	スタジオ・クハラ・ヤギ 代表取締役 八木敦史氏 代表取締役 久原 裕氏 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎 氏	・普及、まちづくり、木材利用を考えた 企画・構想と設計・開発 ・木材を利用した地域づくり
H30.9.22	秋田市アルヴェ	17名	東京大学 特任准教授 佐藤 淳 氏 秋田県立大学 教授 板垣直行 氏	・そこにある木材を生かした構造形態 ・木質構造における接合技術の現状と留意点
H30.10.26	現地	6名	沓澤製材所 常務 沓澤俊和 氏 秋田グルーラム(株) 品質管理部長 田村寿 氏 道の駅ふたつ 駅長 安井清司 氏ほか 道の駅おおゆ 駅長 浅利裕子 氏ほか	・県内木材加工工場の現地調査 ・道の駅ふたつ、道の駅おおゆの見学
H30.11.11	能代市木高研	12名	桜設計集団一級建築士事務所 代表 安井 昇 氏	・木造の防耐火技術と建築事例について ～火事に負けない中大規模木造をつくる～ ・焼きスギ板製作、耐火炉視察

学生を対象にした設計コンペの開催(県受託事業)

開催日	会場	参加者	審査委員等	演題・テーマ
H30.9.25	秋田地方総合庁舎	13名	審査委員長 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎 氏 ほか9名	木材利用提案コンクール応募作品の審査 応募作品数 32点(4校) 最優秀賞 1点 優秀賞 2点 特別賞 1点
H30.10.7	秋田市アルヴェ	30名弱		木材利用提案コンクール表彰式 (作品の展示：同日開催のイベントでポポロードにて実施)

収益事業等

木材に関する調査・研究等を行う事業

企業や官公庁から発注される次のような木材に関する調査・研究事業等を行った。

- 1 企業からの依頼により、製材品・集成材・家具等の強度試験、木材の含水率や熱伝導率などの物性試験のほか、ホルムアルデヒドの放散量測定、ドアの音響試験など、製品の品質管理や新製品開発過程などで必要とする各種の試験を実施する。
- 2 国の各省庁等が発注する木材の調査・研究に関する業務を受託する。
- 3 自治体等からの依頼を受け、木製ダム・木柵・木橋等の木製構造物の劣化等の診断を実施する。

受託件数：56件

分野	件数	主な試験内容
強度試験	34	<ul style="list-style-type: none"> ・集成材の曲げ試験 ・CLT木橋の戴荷実験 ・集成材のブロックせん断試験 ・イスの強度試験 ・簡易接合金物のせん断試験 ・縦振動ヤング係数試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>
物性試験	12	<ul style="list-style-type: none"> ・集成材の接着性能試験 ・フローリング寸法変化比較試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>
その他	10	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐材を用いた土砂・雪崩災害警報システムにおける木柵屋外試験 ・市民プール湾曲大断面集成材の診断調査等 ・木製治山ダム健全度調査 ・パーティクルボードのホルムアルデヒド放散量試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>

■貸借対照表■

平成31年3月31日現在(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	245,412	3,747,746	△ 3,502,334
定期預金	0	250,000	△ 250,000
未収金	0	5,812,344	△ 5,812,344
流動資産合計	245,412	9,810,090	△ 9,564,678
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産普通預金	23,700,062	25,984,522	△ 2,284,460
基本財産定期預金	18,400,000	18,150,000	250,000
基本財産未収金	15,653,260	13,618,800	2,034,460
基本財産投資有価証券	677,677,102	666,059,885	11,617,217
基本財産合計	735,430,424	723,813,207	11,617,217
(2) その他固定資産			
電話加入権	144,000	144,000	0
備品	3,084,975	3,546,675	△ 461,700
その他固定資産合計	3,228,975	3,690,675	△ 461,700
固定資産合計	738,659,399	727,503,882	11,155,517
資 産 合 計	738,904,811	737,313,972	1,590,839
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	9,890,724	11,495,939	△ 1,605,215
預り金	250,753	259,694	△ 8,941
流動負債合計	10,141,477	11,755,633	△ 1,614,156
負 債 合 計	10,141,477	11,755,633	△ 1,614,156
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	600,000,000	600,000,000	0
基本財産評価益	135,430,424	123,813,207	11,617,217
指定正味財産合計	735,430,424	723,813,207	11,617,217
(うち基本財産への充当額)	(735,430,424)	(713,855,766)	11,617,217
2. 一般正味財産	△ 6,667,090	1,745,132	△ 8,412,222
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
正味財産合計	728,763,334	725,558,339	3,204,995
負債及び正味財産合計	738,904,811	737,313,972	1,590,839